

令和3年度 第2回君津市総合建設審議会 会議録

名 称 君津市総合建設審議会  
開催日時 令和3年6月21日(月)  
午後1時15分から午後3時  
開催場所 君津市役所9階 議会全員協議会室  
議 題 新しい総合計画 基本構想(素案)について  
出席委員 13名  
高橋明 橋本礼子 下田剣吾 佐藤葉子 松本裕次郎 鈴木高大  
伊澤貞夫 佐久間宏行 天笠寛 渡邊由希夫 関口牧江 川名寛章  
平田悦子  
出席職員 12人  
市長 石 井 宏 子  
企画政策部長 竹 内 一 視  
総務部次長 錦 織 弘  
総務部次長 DX推進課長事務取扱 村 越 護  
企画政策部次長 高 橋 克 仁  
財政部次長 財政課長事務取扱 草 苺 祐 一  
市民環境部長 市民活動支援課長事務取扱 丸 博 幸  
保健福祉部次長 厚生課長事務取扱 長 田 幸 二  
経済部次長 経済振興課長事務取扱 茂 木 一 也  
建設部次長 建設計画課長事務取扱 石 川 雅 一  
教育部次長 教育総務課長事務取扱 高 澤 光  
消防本部次長 消防総務課長事務取扱 田 村 和 弘  
企画政策部 企画課 課 長 馬 場 貴 也  
" " 副 課 長 中 村 峰 之  
" " 係 長 山 口 悟  
" " 副 主 査 東 聡 年  
" " 主 任 主 事 石 井 悠 太

公開又は非公開の別  公開 ・  非公開

傍聴者 2名(定員10名)

(高橋企画政策部次長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和3年度第2回君津市総合建設審議会を開催いたします。委員の皆様には、ご多用のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私、事務局を務めております、企画政策部次長の高橋でございます。本日の会議の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、本会議につきましては、新型コロナウイルス感染防止に努めておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。最初に「会議次第」、次に「席次表」、次に「委員名簿」、次に「執行部出席者名簿」、次に「総合建設審議会条例」を改めて机の上に改めて配布させていただいております。

議題に係る資料は、お手元の会議次第に記載したとおり、資料1の君津市総合計画 基本構想(素案)について、資料2の君津市総合計画 基本構想(素案)概要、資料3の君津市総合計画 基本構想(素案)、ここまで、お忘れ等、ご不足はございませんでしょうか。

続きまして、前回の審議会以降に委員の交代がございました。新しく就任いただいた委員の方をご紹介します。君津市自治会連絡協議会の渡邊委員でございます。

(渡邊委員)

皆様お世話になります。よろしくお願いいたします。

(高橋企画政策部次長)

続きまして、高橋会長から皆様にご挨拶を申し上げます。

(高橋会長)

本日はお忙しいところご出席を賜り誠にありがとうございます。さて、本日は、「新しい総合計画 基本構想素案について」を議題としております。本市のまちづくりにとって重要な案件でありますので、委員の皆様におかれましては、それぞれの専門的な立場からご意見賜りたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。簡単ですが、私の挨拶いたします。よろしくお願いいたします。

(高橋企画政策部次長)

ありがとうございました。それでは、続きまして、石井市長から皆様にご挨拶を申し上げます。

(石井市長)

君津市総合建設審議会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。日ごろから、皆様には、市政各般にわたりまして、格別なるご支援、ご協力をいただいておりますこと、心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

また、本市に新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置が適用されたところ

ろでございますけれど、医療従事者の皆様、市民、事業者の方に協力をいただきながら感染防止に努めているところでございます。

本日も、アクリル板を設置するなどして、感染症対策を行いながらの会議でございます。どうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。

はじめに、自治会連絡協議会の渡邊様におかれましては、新しく委員をお引き受けくださいまして、心から感謝を申し上げます。

さて、本日、皆様にご審議いただく議題は、「新しい総合計画 基本構想素案について」でございます。

新しい総合計画については、オンラインによる市民会議、未来ワークショップ、団体ヒアリングやタウンミーティングを実施するなど、市民や事業者の皆様との対話を重視して策定をして参りました。また、議員の皆様にも沢山のご意見を賜っているところでございます。ありがとうございます。

加えて、前回の君津市総合建設審議会においても、委員の皆様から様々なご意見やご提案を頂戴いたしました。

本日は、これまでの取組結果やいただいたご意見等を踏まえまして、作成した基本構想の素案を基に、ご審議していただきます。

詳細については、後ほど事務局からご説明申し上げますが、本市のまちづくりの指針となります、大変重要な案件でございますので、皆様の慎重なるご審議をお願いいたしまして、あたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(高橋企画政策部次長)

ありがとうございました。恐れ入りますがここで市長は公務の都合上退席となりますのでご了承願います。

～市長退席～

(高橋企画政策部次長)

当審議会につきましては、君津市情報公開条例に基づき公開となっております。傍聴の方が2名いらっしゃいますので、その旨ご報告いたします。

本日の会議出席者は13名です。よって、半数に達しておりますので会議を開催させていただきます。

さっそく、議事に入らせていただきます。それでは、総合建設審議会条例第5条第1項の規定により、会長に議長をお願いいたします。

(高橋会長)

それでは暫時、議長を務めさせていただきますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。なお、本日の会議録署名人は天笠委員を指名したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事を進行させていただきます。議題「新しい総合計画 基本構想素案

について」を議題といたします。事務局の説明を求めます。

(事務局)

資料のとおり説明。

(高橋会長)

ただいま事務局からの説明が終わりましたが、質疑、ご意見等ございましたらお願いいたします。

(松本委員)

ご説明ありがとうございます。1点お伺いしたいのですが、今説明しました基本構想素案概要の2ページ目の下にありますが、将来デザインの市内共通のところで、砂利採取場跡地の活用という言葉が出てきます。今までまちづくりの中で、あまりこの言葉が出てこなかった記憶があるのですが、基本構想の素案なのであれですけども、跡地を活用して、見えているものがあるのか、何かをやろうとしているのか教えてください。

(高橋会長)

企画政策部次長。

(高橋企画政策部次長)

砂利採集跡地の活用についてですが、現在、具体的なプランがある訳ではございません。前の基本計画にも土地の利活用の一つに基本的な方向ということで、跡地の活用で一文触れておりますが、まだ実現には至っていないというところでございます。

本市は広大な跡地が点在していることから、有効活用が必要であることや、企業誘致においてもまとまった土地が必要であるという課題もございます。跡地の有効活用については、様々な課題や規制等もございますが、先進事例等を研究しながら今後の利活用に向け、進めていきたいと考えております。

(松本委員)

ありがとうございます。君津市内には沢山あると思いますので、業者さんとの交渉や法規制等などあると思いますが、その辺をしっかりと研究していただいて、君津市に有効となるようよろしくお願いいたします。

(高橋会長)

他にございますか。佐藤委員。

(佐藤委員)

それでは何点かお伺いしたいと思います。まず、人口についてですが、現計画は2013年から10年間の計画でございます。2012年度末には8万9千人の人口で、202

0年度末には8万1千人になってしまうという推計の中、9万人を目標に始まった計画です。

しかしながら、現在、推計に近い数字となっています。まず、この現状についての見解をお伺いしたいのと、また、令和4年度からの次期総合計画の終期は、2030年度であります。推計では約7万3千人というところを、7万7千人という人口フレームを設定しておりますが、この設定の根拠についてお伺いしたいと思います。

以前いただいた策定方針案の概要の中では、2030年までに転出超過ゼロ、出生率1.8としておりますが、この考え方でよろしいのかお伺いいたします。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

委員のご質問の一点目、現計画の人口9万人の件については、仰るとおり、現在の人口とは数字がだいぶ離れていることは承知しております。国勢調査の速報人口ですと、本市では8万2千人ちょっと出ておりまして、これまでも総合戦略等作りまして、取り組ませていただいておりますが、目標に至っていないという反省がございます。併せまして、社人研の推計につきましては、かなり正確な見込みといたしますか、次の2030年には7万3千人と出ておりますが、それをそのまま受け入れるのではなく、やはり、人口の減少は、まちの活性化に直結するものだと考えておりますので、委員が仰いましたような、現在の総合戦略で出生率2030年までに1.8、また、転出超過ゼロということで、7万7千人と考えさせていただいたところでございます。

具体のところでは現在考えておりますのは、資料2の1ページ目の下に、つながりの好循環のイメージを載せておりますが、関係人口という言葉がございます。君津に意識して訪れていただく人、そのような人と人とのつながりを重ねまして、人が人を呼ぶ好循環を作って参りたい。人口を維持して参りたいという考えがひとつ。

また、土地利用の表現で、若い世代への住環境の整備、低未利用地の利活用による定住の受け皿の確保を目指しておりますので、そのようなところから7万7千人を実現して参りたいと考えているところでございます。

(高橋会長)

佐藤委員。

(佐藤委員)

はい。わかりました。人口は総合的な施策の結果であるので、難しいものではあるのですが、国が2030年には出生率1.8というふうに定めておりますのでそのままというのは、大変数が読みにくいと思いますし、今は1.2台ですよ。それを1.8に持って行くのは大変ハードルが高いと思いますので、その辺もしっかりと検討しなければならないと思いますし、君津市の人口ビジョン、策定しておりますが、その中でも色々、出生率

であったり、色々組み合わせパターンを出しております。そういった分析が大変重要ですので、君津市の人口ビジョンの中でも、恣意的に人口推計を行うのではなく、裏付けのある分析を行い、人口減少という問題に正面から向き合うことが重要であるとされておりますので、君津市のこと、他の自治体も踏まえながら、しっかりと策定、推進していただきたいので、よろしく願いいたします。

それから、空き家、住宅環境の整備についてお伺いしたいと思います。先ほどの、総合計画の策定についての、策定の趣旨のところ、現計画の成果や課題なども含めて述べられておりますが、この中で空き家バンクなどによる住環境の整備とございます。そうすると、本市の住環境の整備は主に空き家バンクだったということになる訳ですが、この成果はあまり大きくはないように思いますけれども、主な住環境の整備策、現状はどうであったのかを伺いたいのと、また、新たな計画の中で、地区ごとの方向性で、君津地区の、先ほど述べられていました若い世代が住みたくなる住環境の整備と、市内共通で、多様なライフスタイルを支援する、空き家を利用した移住や二地域居住の推進と、新たな展開を考えておられますが、ここについてどのようなお考えがあるのか、ざっくりで結構ですので、お話しください。

(高橋会長)

石川建設部次長。

(石川建設部次長)

確かに、空き家バンクだけでは定住促進に繋がるような施策ではないと、当然認識しております。現在のところ、空き家バンクに掲載している件数が非常に少ないというところでご理解いただけるかと思えます。そこで、先ほど企画課長から話があったとおり、若い世代が住みたくなる住環境の整備ということで、現在、君津地区、駅周辺等に多く見られます、低未利用地、駐車場等になっているところ、あとは、公共施設が使われなくなったところの跡地の利活用、こういったところを、住宅地にしていきたいと現在思っているところがございます。空き地の有効活用というところで、受け皿の確保を進めていきたいと考えております。君津地区以外におきましても、多様なライフスタイルということで、テレワーク等も進んでいるところがございますので、そういったものの活用に向けて方策を検討したいと考えております。

(佐藤委員)

はい。わかりました。人口は減少しておりますが、世帯数はさほど減っていないですよ。3万9千世帯を前後しているような本市の現状がありますので、住環境の整備が重要になってきます。空き家バンクも重要ですし、また、空き地の活用ということで、民間との連携も大事になってきますので、しっかりと具体的に方針を定めていただきたいと思えます。

最後に一点確認ですが、将来デザインの中で、多極ネットワーク型のコンパクトでスマートな創出ということで、このイメージをお話いただきたいと思えます。

(高橋会長)  
馬場企画課長。

(馬場企画課長)

本計画をつくるに当たりまして、タウンミーティングを市内9箇所で実施させていただきました。そうしますと、参加いただいた皆様それぞれの地域に、思いですとか、誇りを持っていらっしゃると感じたところがございます。そういったことを考えますとやはり、それぞれの地域に拠点となるようなものが必要だと感じました。また、災害のことを考えますと、地区ごとに拠点が必要であると考えましたので、それぞれの地域に拠点をつくり、それぞれを、道路ですとか、あるいはDXを推進した暁には、バーチャルでつながる部分も組み合わせて、つながりを深めてコンパクトにしたい、それぞれの拠点がつながって、一つの君津をつくっていきたいとご理解いただければと思います。

(高橋会長)  
佐藤委員。

(佐藤委員)

はい。ありがとうございます。まだ検討段階ですので、詳しくは計画でお尋ねしたいと思います。5つの柱、5つの将来の姿ということでお示しいただいて、SDGsの要素もかなり散りばめられていて、2030年のイメージがつくような内容になっていると、わかりやすい表現だなと思いますので、しっかりと、職員一人ひとりがこのイメージを、構想を抱きながら、進めていただきたいと要望します。以上です。

(高橋会長)  
平田委員。

(平田委員)

私の方からも何点かお伺いさせていただきます。資料2の将来ビジョンを実現するための柱と将来の姿で上から4つ目、快適で安心して暮らせるまちのところですが、先ほど佐藤委員のお話にもあったように、人口が今後減っていくということで、人口フレーム7万7千人とありますが、そういった中で、中段の辺りに、公共交通機関も充実して、一段と快適にと書かれているのですが、人口が減ってきた場合には公共交通は基本的には衰退していくものが多いと思います。このように書かれているということは、人口が減少しても、それを改善するような何かがあると思うのですが、その辺りのお考えについてお聞かせください。

(高橋会長)  
馬場企画課長。

(馬場企画課長)

公共交通につきましては、委員仰るとおり人口減少との関係性が深いと考えております。一方、自動運転の技術でございますが、現在はレベル0からレベル5まである段階の中で、丁度中間のレベル3の状態だということで、これから自動運転、未来に向かって希望を見出したいというのが一点ございます。

また、最近の言葉では、CASE、ケースという言葉がございまして、コネクト、オート、シェア、電動の略だそうですけれど、そういったところもうまくかみ合わせながら、君津市全体の交通モードをうまくまとめていきたいという気持ちで書かせていただいております。

(高橋会長)

平田委員。

(平田委員)

ありがとうございました。自動運転というお話が今ありましたけれども、実証実験でも取り入れている市町村もあるようですので、高齢化が進んでいく山間部なんかも自動運転が発展すると、便利になるかなと思いますので、是非進めていただきたいと思います。

次に、資料3の将来デザインのコンセプトのところ、先ほど佐藤委員が触れられていたのですが、多極ネットワークのところ、同じ文章で新たな核づくりとありまして、地区の特性に応じた拠点と言われていて、都市部のところが新たな核、地区の方が拠点という書かれ方をしていると思いますが、拠点の方は先ほど少し説明があったのですが、新たな核ということもすごく抽象的でよくわからないのですが、都市部の新たな核というのがどういうものを意味しているのかということと、さっきの説明だと、地区の特性に応じた拠点というのは、人が集まることなのか、何か新しくつくるとことなのか、よくわからないので説明をお願いします。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

コンセプトの中にございます、新たな核づくりによる都市部の活性化については、現在のイメージでは、議会でもご質問いただいております、君津インターチェンジの辺りを今後なんとかしていきたいという考えがございまして、このような表現をさせていただいております。

規制がございまして、ハードルが高いことには変わりはありませんが、市民の方の思いのある、インターチェンジにつきましては、改めて、この計画で位置付けまして、そこで新たな核ができることで、活性化を目指して参りたいという考えでございます。

また、特色に応じた拠点でございますが、やはりそれぞれの地区、空き公共施設でござ

いますとか、引き続き使っている施設も古いものが多いので、そういった施設の統廃合を見ながら、それぞれの地区に光の当たるものを見出していきたいという考えがございます。

(平田委員)

ありがとうございます。核の方は君津インターチェンジのエリアということでわかったのですが、特色に応じた拠点というのは必ずしも建物ではないということでしょうか。空き公共施設だったり、公民館だったりという考え方でしょうか。

(高橋会長)

馬場企画課長

(馬場企画課長)

お答えが足りず申し訳ございません。イメージとしては、空き公共施設を活用していきたいということで、ハードの面も当然あると考えております。また、ハードではない部分も、あった場合にはそういうことも活用して参りたいですし、建物の統廃合をうまくやっ  
ていながら、老朽化したものをうまくまとめていながら、各地区の拠点づくりを進めていければなということで、概ねハードというものをイメージしております。

(高橋会長)

平田委員

(平田委員)

はい。わかりました。まだ案というか、計画の段階なので、これから内容をしっかり考えていただいて、すみません、最後に一点、私の住んでいる地域が内みのわ運動公園の近くなので、内みのわ運動公園の新たな魅力づくりということで、プールが閉まってから近所の子供たちが、がっかりというか、残念という声も聞いているので、内みのわ運動公園の新たな魅力というところがすごく気になるのですが、教えていただければと思います。

(高橋会長)

石川建設部次長。

(石川建設部次長)

内みのわ運動公園につきましては、プールが閉鎖されており、なかなか魅力的な公園になっていないという意見をいただいているのが事実でございます。そこで、民間を活力した新たな魅力といったところで、例えばですが、カフェを民間でやっていただくですとか、現在、内みのわ運動公園の再整備を検討しているところですので、今後お示しさせていただければと考えております。

(平田委員)

ありがとうございます。

(高橋会長)

他にございませんか。橋本委員。

(橋本委員)

私から何点か伺わせていただきます。文言のところをお伺いしたいのですが、前回の総合計画とは違うなというところがあるのですが、最初の行動姿勢、わかりやすいと思います。君津市には色々な方が住んでいらっしゃるので、そういった方たちをつないでむすんでいくと。そして未来をつくっていくと。わかりやすいですが、第2の将来ビジョンのところですが、以前は将来都市像としていたところを将来像という、人のあるべき姿とか、色々なことを考えるのですが、総合計画は一番上にあげるものですので、色々な方にわかりやすい言葉にして欲しいという思いがありまして、君津の人がこうなって欲しいということももちろん重要ですが、君津市としてこういう都市を目指すという気構えみたいなものが欲しいかなと思いますので、将来都市像としなかった大きな理由をお伺いします。

それに関連して本市の人口フレームとあるのですが、フレームという言葉が、調べますと、人口を最も重要な算定根拠としつつ、世帯数や産業活動、将来の見通しを加え、市街地として必要と見込まれる面積、フレームというのは枠づくりということで、そもそも都市計画区域の整備、都市マスの要望になると思うのですが、もう少しわかりやすく、例えば将来目標人口とか、出していただけると、その下の、人口減少策をやっていくということが生きてくると思います。先ほど佐藤委員がお話されましたけれど、人口の設定には色々市の思いがあると思いますが、転出を抑制して転入を促したいとか市の思いがこれから基本計画の方で実現されていくと思うのですが、この人口フレームを将来目標人口と、言葉がわかりやすくなると、皆さんが、3千7百、人口が減った分を、なんとか色々な取組で、施策で、この総合計画の中でやっていくというのがわかりやすいのではないかと思います。そして、色々な市の総合計画を調べたのですが、将来フレームの中に人口フレーム、産業フレームの中があるとわかりやすいのですが、君津市の場合は将来ビジョンとなっていますので、ちょっとわかりにくいのですが、そここのところの考え方を教えてください。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

ご質問ありがとうございます。橋本委員が仰ったように、現計画では将来都市像を使わせていただいております。ここでお示ししているのが将来像という言葉でやらせていただいておりますが、都市という言葉について、君津市では一定のエリアのみを指すようなイメージでよろしくないのでは。君津市全体としてということで、都市という言葉を使わな

い方が妥当ではないのかという議論を事務局側でさせていただいた面がございまして、そういう意味で現在、将来像という言葉を使わせていただいております。

また、人口の部分につきましては、事務方で協議したところでは、人口が増えるイメージのところ、目標とか将来という言葉を使うことが一般的ではないかという議論をしまして、君津市の中で7万7千という枠の中で次のまちづくりをしていくような考えを持ちまして、フレームという言葉を使わせていただいているところでございます。

(高橋会長)  
橋本委員。

(橋本委員)

わかりました。ありがとうございます。やはり総合計画なので、市の思いをもう少し入れていただきたいなと要望させていただきます。わかりやすく都市像というのを以前から使っておりました。総合計画の将来都市像、目標人口が入っておりますので、同じような言葉をまた考えていただきたいのと、人口フレーム、どこでも総合計画で各市載せていますが、難しいだろうと。自然減があります。全国的に難しいだろうという思いはありますが、そこを頑張っていくと。目標としていくのだということ、総合計画でも気構えというのですか、出していただきたいという要望です。要望として将来目標人口は検討していただきたいということをご提案させていただきます。

それと文言の関係なのですが、次の第3の将来ビジョンを実現するための柱と将来の姿ということで、それぞれわかりやすく書かれていますと思いますが、この5つの目標ですね、姿。経済と環境が調和したまちというのはわかりやすいですが、次のいきいきと生活できる地域共生のまち、これ、誰がということになりますので、強くこれを求めると言いますか、市として、誰もがと入れていただくと、誰もがいきいきと生活できる地域共生のまち、を目指すということ。そして後ろの方に、将来の姿とある中の、やはり重なりといけませんので、あらゆる人たちが地域で安心して暮らしていますと。その視野を広げていただいて、健康都市として君津も宣言していますが、健康と福祉ということで、君津も力を入れていただいておりますので、言葉を考えていただきたいなという思いがあります。

3番目は安心して子育て・子育てでき学びを楽しめるまちとは、やはり子育てするとその対象の方がイメージとして浮かぶので、ここは別に良いと思います。

その下の快適で安心して暮らせるまちというところにも、誰もが快適で安心して暮らせるまちと付け加えていただくと、全ての人に対象が広がっていることがわかると思います。

最後のともに創る次世代につながるまち、これは世代という言葉が入っていますので、若者を対象に将来の姿を設定したことがわかるので、そのところも言葉の出し方ですね、そこも提案させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

最後に、総合計画が1年前倒しで策定されることになった訳ですが、同じように色々な計画の見直しがされているかと思いますが、他の計画のことも教えていただきたいと思います。高齢者の福祉計画とかは令和3年に出されているので、計画を重点的にやっていかれると思いますが、もし、ちょっと直すとか、違いがあるとか、そういうものが出てきた

ときには、どのように調整するのか伺います。

(高橋会長)  
馬場企画課長

(馬場企画課長)

ご質問ありがとうございます。5つの柱の誰もがというお話につきましては、それぞれまた健康福祉部門、安全安心・都市基盤部門と協議をさせていただきまして、今後改めて検討させていただければと思います。

また、高齢者の計画等との整合でございますが、令和3年度に高齢者の福祉計画ができておりまして、今回の総合計画ができたことによって、それぞれの下についてくる計画に変更が生じる場合があれば、計画の修正も含めて検討していくべきと考えております。

(高橋会長)  
橋本委員。

(橋本委員)

総合計画は1年前倒しですが、一番聞きたいことは、平成28年から令和4年の計画である地域公共交通網形成計画、これは令和4年までの計画でいくのか、来年見直しがあるのか、そしてその他にも色々な計画があると思います。都市計画マスタープラン、今後どのように見直していくのか。都市計画マスタープランは都市計画審議会が計画されていると思いますが、その見通しというか、状況を教えていただきたいと思います。

(高橋会長)  
馬場企画課長。

(馬場企画課長)

私からは交通計画についてお答えさせていただきます。委員が仰いましたように、計画の期限がございます。また、新しい総合計画がございますので、その辺を鑑みながら次の個別計画につきましては検討して参りたいと思っております。

(高橋会長)  
石川建設部次長。

(石川建設部次長)

私からは都市計画マスタープランについて説明させていただきます。総合計画が1年前倒しで、見直しをするということでございますので、都市計画マスタープランにつきましても、それに併せまして、現在改訂を進めているということで動いております。現在プロポーザル方式で事業者の募集を行っておりますので、今後策定の方針等示していくような

形になると思います。改定につきましては、令和4年度中の改定で、総合計画とズレが少ないように、年度内の改訂を目標としております。

(高橋会長)  
橋本委員。

(橋本委員)

ありがとうございます。最後に、地域福祉計画というのが、令和元年から令和5年までのものがあるのですが、その中で、地域の共生が総合計画で載っていますので、地域福祉計画は市のものですが、地域福祉活動計画もありますので、そういうところとの整合はどのように行ったのか教えていただきたいと思います。

(高橋会長)  
長田保健福祉部次長。

(長田保健福祉部次長)

地域福祉計画並びに地域福祉活動計画の件でございますが、今回、総合計画の策定を受けまして、計画に差異があるとか、そういったことがありましたら、改訂、見直しを進めて参りたいと考えております。

(高橋会長)  
それでは、暫時休憩といたします。再開を14時15分といたします。

～暫時休憩～

(高橋会長)  
それでは、全員集合しましたので、再開をさせていただきます。下田委員。

(下田委員)

よろしくお願いたします。言葉の面でお聞きをしたかったのですが、資料2の子育て・子育ての教育・文化の部分の将来の姿ですが、市民が多彩な文化・芸術に触れる機会があるというのはまさに本市の場合文化ホールとか、図書館を指すと思うのですが、これから30億、40億かけての大規模改修なども予定されていると思いますので、是非、その辺りの固有名詞を出して、総合計画の中でやっていくのだという姿勢を見せていただきたいなということ、そして橋本委員が仰っていた健康福祉のその上のところですが、運動など教室があって、充実していて、元気があり、笑顔があふれてとありますが、やはり行政、市役所の視点から見ると、健康になっていただく、健康に暮らしていただくというのが非常に重要だと思います。つまり、医療費の問題であるとか、介護の問題であるとか、こうした様々な運動や機会を通じて、健康になっていただく。健康づくりをしてもらうという

視点を、元気は市長のこだわりなので入れたいところですが、健康という言葉も、並列して並べても良いし、入れたらどうかというのが二点目でございます。

三点目は、先ほど佐藤委員も仰っていた、SDGsの考え方ですね。持続可能なまちにしていくということが、散りばめられているとありましたので、将来像に、あるいは5本の柱の少し手前に、SDGs、2030年までもまさに偶然にも同じところですから、そこを目指してSDGsの考え方を含めてやっていくのだという言葉を入れたらという三点のご提案について、見解をお聞きします。

(高橋会長)

高澤教育部次長。

(高澤教育部次長)

私の方からは安心して子育て・子育てでき学びを楽しめるまちの中の、文化ホールの施設の改修についてお答えさせていただきます。委員仰るとおり、施設整備につきましては、今後も膨大な費用が想定されることでございます。そういうところも含めまして、より良い教育環境の整備、提供の中に含めて考えさせていただければと思います。検討させていただきまして、反映した中で展開できればと考えます。

(高橋会長)

長田保健福祉部次長

(長田保健福祉部次長)

ご意見ありがとうございます。いきいきと生活できる地域共生のまちの将来の姿の中に、健康という表現がということだと思えます。そちらにつきましては、わかりにくいのですが、文面の中に、元気があり、笑顔があふれているとか、いきいきと生活を楽しんでいるというところで、間接的な形では表現しておりますが、健康というところについても、表現を検討して参りたいと考えております。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

私からはSDGsの件について、お答えさせていただきます。委員仰るとおり、総合計画のゴールである2030年は、SDGsのゴールでもありますことは承知しております。この計画の中の表現として、SDGsという表現が入れられるかどうか、また改めて庁内で検討しまして、入れさせていただくことも含めながら、検討させていただければと存じます。

(高橋会長)

竹内企画政策部長。

(竹内企画政策部長)

ただいま、三点回答させていただきました。文化ホールにつきましては、一例とすれば、市民が多彩な文化芸術を、市民文化ホールをはじめ、色々な場面で触れることができるのか、そういった表現を検討できるかと感じたところでございます。

そしてまた、健康の部分でございますが、健康は柱の一つとしては掲げてございますが、将来の姿につきましては、明確に、以前の将来像のような形で健康という言葉がないという状況になっておりますので、改めて検討させていただければと思います。

そしてSDGsにつきましては、先ほど佐藤委員からお話ありましたが、各所に要素的なところを散りばめているつもりでございますが、はっきりとSDGsという部分が欠けている部分がというご指摘でございましたので、ごもっともなご指摘と捉えまして、何らかの検討ができればと、三点認識いたしましたので、よろしく願いいたします。

(高橋会長)

下田委員。

(下田委員)

よろしく願いいたします。後、何かないかと考えたところで、消防団はどうかと思いました。この文章を見ると、消防団という言葉が見つからなかったのですが、台風の消防団900人の対応を受けて、国からも総理大臣表彰を受けたという経緯もありますし、市長も台風の時の対応について、感謝をしていたこともありますので、例えば前回、防災のソフト事業として、様々な防災の取組をするということがあります。消防団という言葉を入れていただきたい中での流れですが、消防団単独で言えないのであれば、自主防災会と併せて地域の防災の取組という形で入れることもできるかと思います。消防団も人数が減ってきて、でも、市としては防災の中核として応援していこうということで、これから統合や応援の動きがこの10年で予定されておりますので、その点是非検討いただければというのが一点目でございます。

二枚目の地図の方を見ていただきたいと思います。二点目については、君津インターの斜め下にあるものですが、小糸小学校です。市民の方に小糸小学校と言うと、どこを指すかと言うと、やはり旧小糸小学校をイメージされるかなと思います。もちろん、行政の中ではもう新小糸小学校というより小糸小学校となった訳ですが、この辺を、旧小糸小学校も地図の中に入れていただいて、そして、可能であるならば、旧小糸小学校については、小糸公民館の後施設を含めた、住民の人たちに使えって貰えるような施設の可能性も含めて、地域の拠点として、整備していこうというような意見もあるようですので、整備していただいた上で、新小糸小学校と旧小糸小学校については、後施設の拠点整備としてやっていくのだということが書かれると、市民にとってもわかりやすいかなと。まずは表記の話で、庁内の議論が間に合えば、旧小糸小学校の活用についても、盛り込んでもらえるといいなというのが二点目でございます。

最後三点目は、今日も渡邊先生がいらっしゃっていますが、周南地区自治会連合会の大きな要望として、周南公民館の建て替えというのが優先順位一位で繰り返し出ている訳ですが、予定されている周南地区交流センターはどういう、仮称ですけれど、周南地区交流センターは、この基本構想の君津地区、小糸川下流域だと、どこに位置づけられるかなど。パーキングのところかなという読み方ができるのですが、それについてお聞かせをお願いします。

(高橋会長)

田村消防本部次長。

(田村消防本部次長)

消防団の関係でお答えさせていただきます。委員仰るとおり、消防団につきましては、令和元年、一連の災害の地域に尽くした功績により、消防庁長官表彰、内閣総理大臣賞をいただいたところであります。

しかしながら、消防団につきましては、やはり時代の流れと申しますか、人口減少等を含めまして、団員数が減少しており、効率的な活動という観点において、消防団の再編を進めているところでございます。

また、消防団、常備消防は地域消防の両輪を成すものでございますので、地域防災、地区防災にとっては欠かせない存在となります。そういった面からも、どのような記載方法ができるかについて、検討して参りたいと思います。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

私からは地図の表現についてお答えさせていただきます。委員仰いますとおり、現在、小糸小学校という表現とさせていただいております。その右下に、旧秋元小学校という表現もさせていただいておりますので、検討させていただきます。市民にわかりやすい計画づくりをさせていただきます。

(高橋会長)

高澤教育部次長。

(高澤教育部次長)

私からは周南公民館についてお答えいたします。現在、周南公民館につきましては、耐震性の関係から一部使用の制限をしようとしているところでございます。

公民館整備の方向性は出されてはおりませんが、なるべく早く、改修、耐震対策の方向性を出そうと、教育委員会内で協議しているところでございます。

現時点ではこちらにお示しするまでには至っておりません。状況については以上でござ

います。

(高橋会長)

下田委員。

(下田委員)

耐震性云々という話がありましたが、緊急的な安全対策は別として、今後の公共施設の直し方としては、前半5年の中で、できるだけ公民館を建て替えていかなければならないというのが、市も議会も共通した方針だと思いますので、スマートインターも同じ周南地区ですから、スマートインター周辺の新たな交流の創出というところで、読んでいくということを、共通認識に出来ればと思います。もちろん、庁内の内部方針の決定次第ですが、決定した結果、是非そういう形にさせていただければと思います。

最後に一つ、言葉のことを橋本先生も仰っていたので、お聞きしたかったのですが、資料2でいうと、「むすぶ」という言葉と、「つなぐ」という言葉があります。一枚めくっていただいて、将来デザインのコンセプトでいうと、「つながり」という言葉があります。「つながり」を動詞にすると、「つながる」だと思いののですが、「つなぎ」を動詞にすると「つなぐ」ですよね。

この辺の非常に微妙なキーワードが沢山出てくることを、どうするかなというところを昨日寝ずに考えてみたのですが、例えば、整理の方法として、シンプルに考えていただくとすると、例えば、行動姿勢の「むすぶ」という言葉が単独で出てきます。これは非常に良い言葉だと思っていて、つまりは、いわゆるネットワーク、一般的に言われる行政や市民や団体のネットワークをちゃんとしていこうという言葉、日本語を大切に、「むすぶ」という温かい言葉で表現したのだと思われ。しかしながら、将来ビジョンでは「つなぐ」という別の言葉が出てくることで、混乱は更に加速をしまして、更に、「つなぐ」でいくと思ったら、三枚目で「つながり」と、また別の言葉にいくという中々ちょっと芸術的な言葉の変遷をしています。

なので、例えばですが、シンプルにこの「むすぶ」を「つながる」にしたなら、多分それは全部いけるのではないかと思います。「つながる」とか「つなげる」とかにして、「人が輝き 幸せつながる きみつ」ということになって、3ページ目も、「つながり」が大事なので、それをつなげていくということになるかなと思うのですが、どれを選択するかは本当に好みの問題かと思いますが、似たような言葉と、表現の一字違う言葉が4つ並んでいるのはかなりわかりやすいとは言えないかもしれないので、その辺を皆さんで頭を整理してもらって、一番大事な言葉を中心に、それが網羅的に使われるようになれば良いかなと思います。

「つながる」という言葉も悪い言葉ではないし、「つながる」、「つながり」という言葉にしても良いと思うのですが。市長も台風の時に一番大事にしてきた言葉って何かわかりますかね。市長は「絆」という言葉を色々なところで皆さんに言っていたので、また新たな第5の言葉まで頭に残っているとすると、ちょっと複雑なので、どれか1つか2つに絞って、それをうまくずらしていく形が良いとご提案を申し上げてどう直すかは皆さんにお任

せいたします。

最後、防災の話も言葉だけですが、先ほどの消防団や防災の話をどこに位置づけるかについては、市内共通のところに、ソフト事業として、消防団や自主防災会を活用した地域の防災力の向上という形で入れてもらえば、一番問題がなくいけるかなと思いました。以上でございます。長々と失礼しました。

(高橋会長)

他にございますか。伊澤委員。

(伊澤委員)

公民館ということが出てきましたので一つお願いですが、将来ビジョンの柱が5つありますけど、その多くに公民館が関わっていて、君津市は広いですので、その地域の核として活動しておりますので、できましたらこの構想の中に公民館の役割を入れてもらえたと考えます。

それともう一点として、市を挙げてこの構想に取り組んでいくという考え方でございますが、自然災害の時には市民も相当協力して対応していこうという考えがあったのですが、コロナになって、今後は反対に地域の絆が崩れてきているようなことがありますので、やはり前から言われている、自助、共助、公助ですか。この三つも考え方をこの構想、あるいは次の計画の中に入れていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(高橋会長)

高澤教育部次長。

(高澤教育部次長)

ご意見ありがとうございます。公民館の役割は、やはり地域の社会教育だけではなく、地域のコミュニティ、また災害の時には拠点として機能してございました。そういう中で、重要性は非常に高いところでございます。そこで、地域コミュニティの核という中で、公民館についても、位置付けていければと考えてございます。公民館の文言をこの中ということにつきましては、また改めまして、庁内全体で検討させていただければと思っております。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

伊澤委員からコロナ禍で人間関係がというお話がありましたが、先ほど下田委員からも「むすぶ」、「むすび」、「つなぐ」、「つながり」の言葉の整理、ご指導いただきましたけれども、そういった中で、人と人とのつながりというものをキーワードに掲げてございます

ので、そういった状況に陥ってもつながって乗り越えていきたいという気持ちでつくらせていただいております。今後とも、そのような地域のつながりを意識して参りたいと思います。

(高橋会長)

他にございますか。鈴木委員。

(鈴木委員)

それでは、まず、関係人口を増やすという中で、基本構想でも、君津駅周辺の商業、医療の集積、また、三直インターチェンジの開発等がございますが、これが君津の関係人口に対しての、人の流れであるとか、そういったものの資料、公のもの、民間のものあると思いますが、こういった数字を取り入れていらっしゃいますか。

(高橋会長)

中村企画課副課長。

(中村企画課副課長)

ご質問ありがとうございます。関係人口の根拠というか数字的な部分であったかと思いますが、関係人口、これは多様な人材が地域づくりに参画ということで、色々な関わり方があるかと思えます。一般的には観光で訪れた方でもなく、定住でもない、その間にいらっしゃる方、例えば、かつて日本製鉄で働いていた方が転勤等で違うところにいった方でも君津に愛着を持っていらっしゃることもあろうかと思えますし、また、一度君津を出た方についても、家族が実家の中で、帰ってくることもあろうかと思えます。そういった多様な人のことを関係人口とってございます。定量的な数字というものを、現在把握できている状況ではないですが、様々な形で、本市に関わるような方々を、色々なチャンネルの中で増やしていくことが重要でございますし、そういった関わりの中で、定住などに結びついていければと考えております。

(鈴木委員)

関係人口、交流人口、色々な数値が出るのですが、まずは君津を通り抜けている人口、君津を目指してくる人口、また逆ですよ。君津から来る人口もございますので、その数値の上で、人口フレームが下がっている中、やはり計画を練っていくのが重要だと思います。例えば、君津から東京に行くのに、バスに乗りたい、でもバス停が遠いとか、バスに乗った人ではなくて、何で乗れないというアンケート項目まで入れてもらえると、利用者の気持ちとか、今高校生だけど、大学生また社会人になる人が、生活ビジョンを立てるにおいて、君津に住みながら、東京に行ける、それなのに交通網がないから東京に住むしかない、またその逆もあるかと思えますので、ここの数字は是非とも色々なアンケートを取りながら、正確な数字を出すことによって、色々な戦略ができると思いますので、進めてください。

もう一点は、人口が実際に減っていくビジョンですが、例えば、JAさんは袖ヶ浦、富津、君津を跨いでいますよね。もちろんビジネスの世界で言えば、もっと遠くまで跨いでいます。その中で、木更津が企業誘致をしております。確認なのですが、ここ数年、台風とコロナ禍の中、情勢が、本当に先が見えません。例えば、周辺の市と統合することになった際のメリット、デメリットを把握していらっしゃるれば教えてください。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

周辺市との統合についてのメリット、デメリットという質問でございましたが、今の総合計画の中では、近隣市との統合等につきましては、現在、近隣市との話がないため、特に掲載はしていないところでございますが、かつて四市で勉強会をしたことがございまして、いわゆる中核市、20万人都市になることで、県と同じような権限が、市でできるようになりまして、県がやっている仕事を、市ができるようになる部分がいくつかあったと記憶しております。そういった直接的にできる部分が発生してございますので、そういったところは市民にとってのメリットになる部分ではないかと思っております。お答えになっていないかもしれませんが、以上でございます。

(高橋会長)

鈴木委員。

(鈴木委員)

2018年度の時点で、ちばぎん総合研究所から、今後10年、20万人未満の千葉県下市町村は財政赤字に転落する可能性が7割あると出ております。そんな中で、民間は交流が増えている中、どのようなことが起こるかわからない中で、10年後までずっと待つのか、もしも最悪のことが起こってくる場合、この計画そのものが変わる可能性があるのか教えてください。

(高橋会長)

馬場企画課長。

(馬場企画課長)

人口が減少していく中で、税収等への影響については、やはり通常は、人口の減少により税収が減少することを考えなければならぬと思います。現在、君津市の財政状況につきましては、貯金と申しますか、財政調整基金は、30億円弱という数字を持っておりまして、また、各種法律で定められた赤字比率等々の比率は、問題がないという法律上の数値となっております。こういったところが今後は、財政あつての計画だと思いますので、5つの柱のうちの1つに行財政を掲げさせていただいております。効果的な財政運営をさ

せていただくと柱に載せさせていただいておりますので、今後とも、厳しい財政状況乗り越えて参りたいと思います。

(高橋会長)

鈴木委員。

(鈴木委員)

ありがとうございます。計画をするのに潰すようなお話ばかりですみませんが、是非とも、君津市が今後50年も継続していけるようよろしくお願いいたします。

もう一点だけ、法木山周辺のところが出ておりますが、南房総の玄関口という文言もありましたが、未だ令和元年房総半島台風の爪痕というのですかね、倒木などが多く残っております。これからまた、コロナ禍の中ではございますが、観光シーズンを迎えるに当たり、どうしても今後の処理ができない、例えばまだ調査が必要であるとか、そういった理由があるのかどうか、また計画をするに当たって、計画だけで実施するのはすごく時間がかかるとか、そんな感じを受けましてので、あの辺りの処理の計画があれば教えてください。

(高橋会長)

茂木経済部次長。

(茂木経済部次長)

私の方から法木山の倒木に関してお答えいたします。委員仰るとおり、倒木が台風の影響で残っているのは事実でございます。現在、経済部の方では、電線に近い方、電線にかかって停電になったことが前回の教訓としてございましたので、こちらの方を優先的にやらせていただいておりますので、この先、法木山等の樹木につきましても、適宜対応させていただきますと思います。

(高橋会長)

他にございますか。天笠委員。

(天笠委員)

今鈴木委員が仰った、木更津等々の動向と申しますか、10年計画を見せていただく中で、明るい感じがあまり見えないなど、現実にはこれがうまくいくのかなど。また、君津市は老朽化が進んでいることもありますから、施設等も大変な状況でこれからどんどん改修するなり建て替えるなりしていかなきゃいけない。むしろ、この市役所自体も耐震化できておらず、災害が起これば本部になる訳ですが、本部が危険であることを考えると、多分大丈夫だとは言いきれないはずだと思います。その辺のことを考えると、もう今から将来のことを考えて、まさに統合していかないといけないのか、そういったことを今から考えないと、多分、駄目になってからではもう手遅れかなと思いますので、是非、その辺はもう一度一から考えて、10年後の姿をみて進んでいただきたいなど要望しておきます。

(高橋会長)

他にございますか。渡邊委員。

(渡邊委員)

タウンミーティングの時に申し上げましたが、10年計画を持ちながら、市民の生活を考えるのは大事なことだと思いますが、やはり、時には即効性も必要ですということをお願いしたのですが、今色々な方から伺うと、防災に関することや、ワクチン接種に関することを第一優先にしてやっていただくなかで、この先が見える形、今日は素案ということですので、具体的にどのようなものが出るかなと思っていたのですが、それが見えない。私自治会長をやっています、色々な人と話したのですが、私の住む自治会が10年後には、今65歳以上の人が6割以上ですから、どのくらい残っているだろうということも含めると、人口がもっと減ってくる可能性もあるのかなという捉え方も、若い人たちが、どうしたらそこに住んで生活してくれるかが、というものや、安全を守るために、公民館はいつまでにどこをどうやって修理して出しますとか、介護が必要な人が避難する時に、どこの場所はどれだけの場所を確保しておくので、他の人たちはこういう風に動いて下さいとかを出していくことがとても重要なのかなと思いましたので、是非とも次はそういうものが見えるような提案をしていただきたいと思います。

(高橋会長)

他にございますか。下田委員。

(下田委員)

前回言わせていただいた脱炭素のことが、しっかり文字で入れていただいたのが非常に良かったなと思いました。我々はCO<sub>2</sub>の排出の多いことで発展してきた鉄のまちでありますから、その鉄のまちが色々な環境にやさしい取組をしていくことは、非常にストーリー性もあるし、本市が輝く一つのヒントになるだろうという風に思いますので、一番上に載せていただいたことは期待ができますと思います。

是非具体的な取組にさせていただきたくて、特に今回台風の時に、停電で困ってから学校に太陽光を載せようとしたけれども、お金が足りないということで、断念をして、結局化石燃料で動く発電機を買ったという経緯がありました。補助金の関係もありますが、本市はメガソーラーがいっぱいありますから、全世帯の6割は太陽光発電で発電されているという側面もございます。

ですので、次の計画に当たっては、ふるさと納税で日本製鉄から寄附してもらったものを、電気自動車の購入補助に充てても良いですし、何か具体的な、様々な企業と、お金がないからと諦めてしまうのではなくて、知恵を出して民間企業と協力して、是非、この文字を実現するために動くことが、本市の発展に繋がると思いますので、その点を是非よろしくお願ひしたいと思います。

そして、一番下のパートナーシップのところでは、関口さんが仰っていた高校との連携

の文字も入れていただきました。本当に良かったと思います。こうした連携も大事だと思いますし、もう一つ言うなら、商工会議所さんと連携した経済対策事業も増えております。また、この会にはJAきみつさんもいらっしゃるから、君津商工会議所、JAきみつという言葉がこの構想なり、あるいは次の基本計画なりに、お話しした上でですが、是非入れさせていただいて、まさにつながる基本構想、基本計画、総合計画にさせていただきたいという点を要望いたします。

(高橋会長)

竹内企画政策部長。

(竹内企画政策部長)

先ほど渡邊委員の方から、具体的な事業が見えないというご指摘をいただいたかと思えます。資料の1をご覧くださいますと、本日お示しておりますのがこの赤い枠の基本構想の部分でございまして、将来のイメージを記載させていただくものと認識しております。そうした中で、下段の基本計画という部分があるかと思えます。こちらにつきましては、分野ごとの各種施策、公民館はこうなるだろうとかお話ございましてけれども、前半5年の中で、どのように公民館の整備をしていくのか、基本計画の中でお示しできると考えておりますので、その節はまたご意見等いただければと思えます。

そしてまた、下田委員の方から、脱炭素の部分で具体的な事業という部分でございました。確かに脱炭素ということは、絵にかいた餅にならないように様々な事業、公用車の電気自動車化でありますとか、考えられる事業、すぐに着手できること、そして、将来に渡ってやらなければならないこと、様々なことがあるかと思えますので、それぞれの事業が煮詰まった段階で、計画当初からやれるものはやっていくという考えでございまして、その際の財源として、ふるさと納税も活用しながら努めていきたいと考えております。

そしてまた先ほど天笠委員から、庁舎についてご指摘ございましたが、確かに防災拠点としての数値は満たしておりません。という中で、例えばこの庁舎の維持に努めるとともに、防災拠点のあり方についても検討してきておりますので、有事の際にこの庁舎が使えないということがないような形で、庁舎の維持管理に努めて参りたいと考えてございます。

それから、先ほど小糸小学校などの記載についてご指摘ございましたが、お気づきになられた方もいらっしゃるかと思えますが、道路につきましても、鴨川有料道路等の存在は実際にはない訳でございまして、県道等の名称を使って、最も適当な形で仕上げたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(高橋会長)

渡邊委員。

(渡邊委員)

ご説明ありがとうございました。お願いしたいのは、もし公民館だけで考えた場合、一番耐震的に厳しいのは小櫃公民館、次に清和公民館、周南公民館の順ではないかと思いま

すが、その耐震がもうかなり厳しいですよという検査を受けたのは今から10年くらい前のことで、かなり時間が経っている。それから今、5年後まで考えてから建物を考えますというのは、その間にあった時の災害、特に耐震的には苦しいとされているところには、地震があった時には避難ができませんから、私は周南の人間ですから、周南公民館に限っては、周南公民館に避難してはいけないという指示を出し、台風などでは良いですよという出し方をしていきまして、まさに市民の安心とか命というものを、第一に考えていただけのでしたら、5年とはいわずもう少し公民館については早めにお問い合わせできたらと思います。よろしくお願いたします。

(高橋会長)

他にございますか。佐久間委員。

(佐久間委員)

今、下田先生からも地域団体とのつながりという話をいただきました。そんな中、基本構想の中にも農業というキーワードがあるように、農業については、君津市の基幹産業の一つであると認識しているところでございます。そんな中、農業、地域の振興に向けて、地域の農業団体、JAとして、使命を果たすべく第6次の農業地域振興計画という5年計画の策定をしております。これについては、君津市経済部の方にもご案内させていただいております。これからこの基本構想にありますとおり、私どもの取組、君津市も新たに農業振興計画を策定すると伺っております。この農業地域振興計画を進めていくに当たっては、行政との連携は必要不可欠と考えておりますので、是非、ご協力、ご支援いただきますよう要望としてお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

(高橋会長)

他にございますか。それでは、無いようですので、色々と貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。皆様のご意見等を踏まえまして、事務局の方で取りまとめをお願いいたします。以上で議事を終了し、議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

(高橋企画政策部次長)

会長、議事の進行ありがとうございました。その他として、今後のスケジュールについて、ご報告いたします。先ほども説明がありましたが、皆さまのご意見を踏まえ資料を調整した後、パブリックコメントを実施し、最終案をまとめ、皆さまにお示しさせていただきます。日程については、後日調整させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、以上をもちまして、君津市総合建設審議会を終了とさせていただきます。長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

上記、会議録は事実と相違ないと認識し、ここに署名する。

会議録署名人

委員 天笠 寛